

## 活動記録書

開催日： 平成 29 年 7 月 6 日（木）晴れ時々曇	開催テーマ： 義経と女性たちの鎌倉物語
開催場所： 大町・小町・雪ノ下	記入者： 山腰 策次郎
参加人数：	
寺社を巡る会会員	男 30 名 女 6 名 計 36 名
ビジター	男 0 名 女 1 名 計 1 名
合計	37 名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）	
<p>コース： きらら鎌倉⇒教恩寺（本堂拝観）⇒土佐坊昌俊邸址⇒畠山重忠邸址⇒鶴岡八幡宮⇒天金（昼食）⇒岩船地蔵⇒鎌倉国宝館観覧（観覧後解散）</p> <p>義経は約3年間鎌倉に滞在したにもかかわらず、どこで、どのような人たちと係わり、どのように生きたのか、資料がなにも残されていない。今回の寺社巡りでは義経と係わりのあった女性や、ゆかりのある場所などを手掛かりに、様々な角度から推理、一つの大きな物語としてまとめられており、今までにない鎌倉の寺社巡りとなった。</p> <p>最初に訪れたのは大町通りから少し奥まった住宅地に佇む教恩寺。この寺のご本尊である阿弥陀如来像は、源平合戦一ノ谷の戦いで捕虜となった平重衡が鎌倉に連行されたとき、一族の冥福を祈るため頼朝が与えたものとされる。この像は鎌倉初期のもので運慶が刻んだと伝えられている。</p> <p>次は小町大路に面し、石碑が立つ土佐坊昌俊邸址へ。頼朝は義経との対立が決定的になると、義経を誅すべく昌俊を京に派遣する。結果的に昌俊は返り討ちにあうが、頼朝は義経を討つのではなく、義経を挑発し頼朝に反旗を翻す口実を与えるのが目的だったとされる。</p> <p>河越重頼の娘（郷御前）は頼朝の命により義経の正妻となる。義経はこの頃既に無断任官の件で頼朝の勘気に触れており、その後重頼親子は義経との縁戚を理由に誅殺されている。郷御前と幼い娘との平泉での2年余りの幸せな生活も、衣川館での自決で最期を迎える。</p> <p>郷御前の説明を受けた後、畠山重忠邸址に立ち寄り、午前最後の訪問先である鶴岡八幡宮へ。義経と逃亡中、吉野の山中で捕らえられた静御前は、鎌倉に送られ、頼朝の命で八幡宮若宮の回廊で白拍子の舞を奉納する。しかし義経を恋い慕うものであったため頼朝は激怒するが、政子は瞬時にその場を取り成す。政子は事前に静から舞の内容を知らされていた可能性があり、娘の大姫の境遇と重ね、一人の女性としてまた母親として生き抜く凄味のようなものを感じる。</p> <p>「天金」で昼食をとった後、午後最初の訪問先岩船地蔵へ。扇ヶ谷のJR横須賀線の近くに建つ小さな堂宇。この地蔵は頼朝と政子の長女大姫の守り本尊と伝えられている。若くして哀れな死を遂げたことを悼み、多くの人がこの谷に野辺の送りをしたと伝えられる。</p> <p>最後に訪れたのは鎌倉国宝館。平常展示の「鎌倉の仏像」と特別展示の「常盤山文庫名品展」を観覧。鎌倉ガイド協会の造詣深い説明にはつい聞き入ってしまうほどで、大変ためになった。国宝館前で解散。</p>	
参加者の状況・意見など：	
梅雨の合間の晴れで蒸し暑かったが、時々吹き抜ける風が心地よく、十分に楽しめた一日であった。	
次回の予定：	
8月3日（木）10：00～ 金沢地区センター2F 座学：DVD鑑賞「百寺巡礼」	